

中学校第3学年実践事例

1 単元名 個人の尊厳と日本国憲法 「これからの人権保障」

2 「主体的・協働的に学び、次代を創り出す生徒」を育てるために

- (1) 生徒が主体的にかかわる学習課題の設定と探究的な学習プロセスを工夫する。(手だて1)
 (2) 社会に参画する実践力をはぐくむために、主体的な振り返り活動を設定する。(手だて2)

3 本時の学習指導

(1) 本時のねらい

基本的人権に関する身近で具体的な事例から課題を見いだし、これからの人権保障のあり方を諸資料と話し合い活動を通して考察し、根拠を基に説明することができる。

(2) 指導過程

学習活動 ・ 予想される生徒の反応	時間	◎主な支援・留意点 ●評価<方法>
1 課題を把握する。 (1) 本時の学習内容を確認する。 ・結婚＝同じ名字はあたり前！？ ・夫婦は本当に平等か！？ (2) 事象と向き合い、課題を見い出す。 課題 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> 結婚＝同じ名字はあたり前！？あなたは「夫婦同姓」に賛成か？反対か？～婚姻のあり方について考えよう！～ </div>	7	◎アニメ人物の婚姻クイズと婚姻届を活用して結婚に関する基礎的事項を確認するとともに興味、関心を高めさせる。 ◎民法第750条を確認させる。 ◎男女平等に関する法規と婚姻に関する事象をボードで提示し、主体的に本時の課題をとらえさせる。(手だて1) ◎新聞の社説(夫婦別姓、問われる「憲法の番人」)を熟読させる。 ◎自分の考えをもたせるとともに、ペアで意見交換をさせる。 ◎意見交換後、5つの資料(旧民法と新民法の変化の比較、婚姻に関する名字変更の現状、海外の国の名字変更の状況、選択的夫婦別姓の導入、夫婦別姓に関する世論調査)をA4版1枚で提示する。 ◎課題を再度とらえ、夫婦の姓が自分や社会にどのような影響を及ぼすのか。資料から根拠を見いだし、様々な視点や側面から、考えを再考させる。(手だて1) ●根拠を基にした、協働的な話し合い活動を通して、相互に学び合い、深め合う学習ができる。 <観察・ワークシート>
2 自分の考えをもち、意見交換をする。 【賛成】私は夫婦同姓に賛成だ。なぜなら… ・別姓だと家族の一体感が損なわれる。 ・子どもの名字をどうするか問題が生じる。 ・同姓のほうが社会生活上、支障が生じない。 ・民法第750条の規定は憲法違反にあたらない。 【反対】私は夫婦同姓に反対だ。なぜなら… ・旧姓使用を認める職場が広がっている。 ・諸外国では夫婦同姓を義務づけていない。 ・選択的夫婦別姓を導入が適切である。 ・民法第750条の規定は憲法違反である。	10	◎民法の規定が最高裁判決で「合憲」と判断された記事を配付し、課題に対する自己の考えを深めさせる。(手だて1) ●自己の主張を、根拠を基に多面的・多角的に表現している。 <ワークシート>
3 課題を協働的に追究する。 (1) 資料から見いだした根拠を基に、班で協働的に話し合う。 (2) 話し合いにより出された考えや意見をホワイトボードにまとめる。 (3) 代表班がボードを掲示し発表する。	23	◎本時の学習で身についた力を確認する。(手だて2) <振り返りシート>
4 課題をまとめる。 (1) 班内の主張や資料を基に、様々な視点や側面から自己の考えをまとめる。 (2) 学習を振り返り、自己評価をする。	10	

4 授業で見とりたい「主体的・協働的に学び、次代を創り出す生徒」の姿

- 姓に対する互いの意見を、根拠を基に述べ合い、よりよい考えを導き出そうとする姿
- 資料や他者の意見から、自己の考えを表現する活動と振り返りを通して、自らの生き方や生活の仕方を主体的に選択する姿